

「令和」のもと千代田の「和」を進めよう！

会長 鈴木 精成

「初春令月 気淑風和」万葉集の八文字から二文字が浮き出ました。『令和』です。この五月から新元号でのスタートです。「新春のよき月、空気は美しく風はやわらかに」しみじみと味わいたい言葉です。

「平成」を送り『令和』目前のこの四月、年度恒例の「昇伝審査会」が二十一日（日）東郷記念館で開催されました。

岳精流日本吟院
ちよあ

第 62 号

令和元年5月
千代田岳精会弘報

平成三十一年・令和元年指標
香 気

本部から家吉精雄、前澤精淳、越智精麗の三先生を審査員としてお迎えしての開催です。今年の受審者は一八二名で、例年通り緊張感の中にも活気溢れる審査会であったと思います。三先生にはお一人が六〇名余りというハードな審査をご担当頂き、厚く感謝申し上げます。

「発声」（もつと声を前に出そう）・「読み」（言葉は短く、節調は長く）・「ゆり止め、大呼吸」（間）を大事に）その他、先生方からは多くの助言指導を頂きました。これからの精進に大いに生かしていきましょう。

年間行事のうち、流統を挙げての一大イベントである「岳精流全国吟道大会」が六月六日（木）に開催され、千代田岳精会からは二二一名の参加が予定されており、参加会員による一般合吟（男女）、合吟コンクール（男女）、構成吟（吟詠・剣舞）へ出場いたします。千代田の意気を大いに発揮したいものです。

今年の前半を振り返って、その成果を左記します。

一、一月～四月の入会者十三名、復会者五名は昨年から大幅の増加です。特に新しい方の紹介による連鎖入会、広報紙を見ての入会が増えていることは特筆ものです。

二、新しい教場が誕生しました。

石神井教場が櫻田謙山教場長以下三名でスタートです。おめでとうございます。

三、「千代田岳精会ホームページ」作成が起動しました。情報化時代に相応しく、外に向かった積極的なPR手段として、内にある情報は情報の共有、自学自習の手段として、このホームページが大いに生かされていくと確信しています。八月の本格始動に際しては、皆さんが活用されるよう期待しています。詳細は追ってお知らせいたします。

年度後半を迎え、平生の教場研修、自主研修にも一層の拍車がかかっていると思えますが、本部主催の「新潟吟行会」への当会有志参加と併せて、千代田岳精会としての久々の吟行会が開催されることになっており、目下吟楽部門中心で具体的計画が練られています。多くの方の参加を得て、錦秋の一日を楽しみたいと思えます。

新元号『令和』のもと、流統一体となつての「吟友拡大キャンペーン運動」が四月一日から二年間にわたって推進されています。当千代田としては、『令和』の「和」をスローガンに戴き「千代田の和吟友の輪二〇一九ゴー」としてこの年スタートしていることは皆さんご承知の通りです。

これから七月、十月第一研修日を中心に「吟友呼び」を積極的に進めましょう。

「吟は非日常的な時間が持てるから良い」（宗家）。この時間の中で「令」と「和」が醸し出されるのではないのでしょうか。



春の昇伝審査会 神宮の杜に吟声聳す

千代田の昇伝審査は、長く原宿の旧日本海軍の聖地東郷神社境内にあるクラブ「水交会」を会場に実施してきました。駅を挟んで明治神宮にも近く、ご存知の観光客や若者で賑わう竹下通りから道一筋違いの繁華街ですが、閑静な池を窓越しに眺める環境は贅沢の極みと言えます。

この会場は近々建物が改装となり使用できなくなりそうです。残念ながら今年が最後となります。来年の会場を担当部門で鋭意検討していきますが、候補の一つ明治安田生命新宿ビルとなると平日開催となります。

今年の家吉精雄、前澤精淳、越智精麗、三先生の審査で、緊張のなか力一杯に吟ずる会員に先生方も熱のこもった審査と丁寧なご指導を頂きました。終了後の講評では行き届いた運営、会員の暗譜での取り組み姿勢に高い評価を頂きました。審査の先生、長時間の審査有難うございました。担当の許証部門、及び教場毎に司会、伴奏、記録を担当した皆さんご苦労さまでした。

◇中伝合格者

二〇名

丸の内支部 鎌田 秋山
同 下條 信山
同 上村 香山
日暮里 石倉 香山
鎌倉 鈴木 勇山

◇初伝合格者

二六名

桜ヶ丘 同 和田 良山
神楽坂 袖井 孝山
調布 塩月 崇山
中野 宮野 信山
逗葉 市倉 妙山
神田 平井 武山
用賀 松本 篤山
ハザマ支部 小浦場 伯山
同 神田 恒山
同 古谷 嘉山
新宿第二 細田 紫山
同 林 實山
同 吉田 哲山
新宿第四 乙訓 稜山
丸の内支部 川口 心泉
日暮里 田中 美泉
鎌倉 唐澤 溪泉
桜ヶ丘 高汐 櫻泉
同 平井 相泉
同 大森 美泉
清流 中井 武泉
同 島田 翠泉
東陽町支部 鎌手 麗泉
同 藤本 紘泉
神楽坂 澤口 新泉
熊谷 谷口 朱泉
清水 松岡 省泉
中野 金岡 博泉

初伝審査を終えて

清水 松岡省泉



昇伝審査も今年で四回目ですが無事審査を終えることが出来ました。今年には特に前澤先生のご指導を受けさせて頂き、大変感銘いたしました。一人ひとりに心から気持ちのこもったお言葉をかけて下さり、絶妙なタイミングのアドバイスを頂いたことは感謝あるのみです。

先生には審査後に「腹から吟じることのノウハウを教えてください、また私のおへその上を指さして「ここから出すのよ」とおっしゃって頂きました。答えは一言でいうと発声練習の継続だそうです。言うは易しですが…。

神田 久保 杏泉
同 中屋 明泉
新陵 岩崎 友泉
同 小林 岐泉
生田 石井 源泉
同 三島 吾泉
新宿支部 川合 利泉
同 櫻河 義泉
同 小倉 孝泉
新宿第二 大和田 久泉
同 荒井 惠泉
同 井上 幸泉
新宿第四

私が詩吟をやることになったきつかけは先輩の勧めと肺活量の低さで、教場に通うことになりました。おかげ様で肺活量は標準になりました。前述の通り腹から吟じることは、まだまだ叶いません。

最近詩情を浮かべて吟じる方法を悩んでいました。美しい季節、厳しい季節や、思いやり、情の世界等、様々な状況を浮かべて吟じるにはどうしたらいいか？やはり素読に何十回もの練習をしないと出来ないことが分かってきました。因みに私の好きな季節は特に厳しい冬を乗り越えて、暖かい春を迎えてきた頃が好きです。杜牧作の「江南の春」あたりでしょうか！皆様は如何でしょうか？

「平成」最後の寄稿となり、新しい「令和」に新たな気持ちでこの愚文を一読頂けることを願いつつ、来年も東郷神社の庭、木、水面を眺めながら、心を込めて吟じられることを楽しみにして励んでいきたいと思えます。

高級珈琲専門店にて

東陽町支部 藤本 紘泉

此度、無事初伝審査が済み、ホツとしています。三年余詩吟を続けてこられたのは、私の通っているコーヒー専門店「東陽町」の味と雰囲気が良いことに尽きます。

磯田精信先生の深みのあるヴィンテージ物のブルーマウンテンの豆をベースに、岩崎精慶先生の勇壯で、かつ風味豊かな豆を加えて焙煎し、菊

地龍駿先生のゆったりしたコーヒーミル(コンダクター)を使用して花山精櫻先生選のカップに店主の宮野幸山教場長が丁寧に淹れた「東陽町ブレンド」……。

今年入った四人の新人も毎日欠かさず通う楽しいお店で、私は次の中伝を目指して美味しいコーヒーの淹れ方を学んでいこうと思えます。

初伝昇伝審査にあたって

中野 金岡 博泉

好天に恵まれ、葉桜の美しい東郷神社「クラブ水交」において平成三十一年の昇伝審査がありました。

当日は日頃の練習と同じように、力強い声が出せることのみを考えていました。幸い雅号「博泉」を頂けることとなり感謝しております。

詩吟を始めて五年目になりますが、中野教場で諸先輩のご指導の下、最近ようやく力強い声が出せるようになったと思えます。何とか発声とアクセントに気をつけ節調を整え「吟」としての形には近づいてきたと思えますが、まだまだ詩情を詠うことには到りません。ただ最近教場の講習の度に新たな発見があり、詩吟を楽しく学んでおります。

審査で指摘もありました「吟」に詩情が込められるよう、今後も更に練習に励んでいきますので、よろしくお願いします。

昇伝審査「初伝」を終えて

生田 三島 吾泉

昇伝審査は今回が四回目となります。年齢や回数に関係なく試験・審査となるとやはり緊張します。昨年引き続き総本部幹事長の家吉先生の審査を頂き、幸いにも「初伝」の雅号を頂くことができました。有難うございました。入会当初は伴奏も耳に入らず、音は外れ、息は切れ、声は途切れる等々苦戦の日々でしたが「石の上にも三年」の言葉の通り、三年目に入る頃から吟譜やアクセント記号、節調など徐々に理解も進み、最近では「鼻歌」ならぬ「鼻吟」が出る様になりました。

そういう中で今回、生田教場から私と石井さんの二人が初伝の審査を受けました。指定吟題は「壇の浦を過ぐ」と「春寒」の二者択一。石井さんが「春寒」選択、立派に吟じ終えられました。私は教場でのリハーサルで井田教場長から二人別の吟題を選ぶように奨められていましたので「壇の浦を過ぐ」を選びました。本番では練習通りとは行きませんでした。鈴木会長や教場長、先輩の皆様からご指導のお蔭で、緊張はしつつもあがることなく暗譜で吟じ終えることが出来ました。家吉先生からは、初伝に挑戦の二人は甲乙付け難い、声も出ており良かった、これからもどんどん挑戦してコンクールにも出るように、との励ましとお褒めの言葉を頂きました。まだまだ初心者の域を出ませんが、これからも色々な場で諸先輩の皆様からのご指導を頂きながら、楽しく一歩一歩精進して行きたいと思えます。

新しい友達も増えました

新宿第四 井上 幸泉

千代田岳精会に入門し、詩吟を始めて早いもので三年を過ぎました。昇伝審査も三回目を迎え、人前で吟ずるのが苦手でなかなか馴れず、すぐドキドキしましたが、先生方の教えを頂き練習もそれなりに頑張り、何とか無事に終えることが出来ました。吟じていても自分のことは、うまく出来ているのかなかなか分かりません。ただ、これからも先生に注意して頂いた所に気をつけて練習し続けていきたいと思っています。

また、この詩吟を通して詩吟だけでなく、仲間も増え、友達が多く出来たこと、自分の年齢を考えたら新しい友達を作るのは難しいと思います。その仲間、友達を大切にし、明るく、楽しく続けて行きたいと思えます。



岳精流本部人事

平成三十一年 一月一日付

◎指導本部副部長

山口 精央

◎幼少年寿栄部部長

坂下 光山

千代田岳精会人事

平成三十一年 四月一日付

◎清水石神井教場長

櫻田 謙山

総伝が認許されました

下記の方々に長年にわたる吟道への精進と流

統への功績が認められ、一月一日付けで総伝が認許され三月十六日の全国研修会で宗家から許証が交付されました。

おめでとうございました。

千代田岳精会は一昨年創設三十年となりましたが、岳精流最高位の認可者は故初代飯田精鷹会長からこれで十人（物故された二先生を含めて）になります。

菅原 精純（清流）

太田 精翠（草加）

花山 精櫻（東陽町支部）

村上 精道（清水）

山口 精央（丸の内支部）

清水石神井教場開設

一、教場名

清水石神井教場

二、所在地

練馬区下石神井四一四一十八

（西武新宿線下井草駅下車徒歩七分）

三、開催日

毎月第二・第四土曜日 二回

四、会員

櫻田教場長及び会員三名 計四名

五、指導体制

当面清水教場徳本龍治先生、細川修山教場長が支援となります。

ご挨拶と抱負

清水石神井教場長 櫻田 謙山

この度、練馬区石神井の地において、平成三十一年四月一日、千代田岳精会清水石神井教場を開設することと相成りました。教場長を仰せつかり

ました櫻田謙進（謙山）と申します。その器ではございませんが、皆様の力をお借りして努めたいと存じますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。また、この度の開設に当たりましては、この場所をお貸し下さった落合様および、千代田岳精会鈴木会長はじめ幹部の皆様、村上精道、徳本、細川先生、清水、中野、逗葉各教場の皆様のご理解と多大なご支援に対し厚くお礼申し上げます。

元々ここは演歌教室でありましたので音響設備は整っておりません。少人数のスタートとなりますが、仲間を増やし、兄貴分の三教場との交流を行い、明るく楽しい教場にしたいと考えております。何卒ご支援賜りますようお願い申し上げます。



女子部門リーダーに就任して

新宿第二 手塚 勝風

このたび、千代田岳精会の女子部門長という大

役を仰せつかりました。これまでは、同じ趣味の仲間とただ楽しく過ごしていただけでしたが、これからは少しでも皆様のお役に立つことが出来たらと思いい切ってこの大役を引き受けることにいたしました。

女子部は、菅原精純先生をはじめ先輩方が素晴らしい財産を残して下さいました。これ程充実した女子部門はおそらく他の会では見られないのではないのでしょうか。毎年総本部の先生をお招きしての研修会や、合吟コンクールに向けた諸先生のご指導など、これまで私達が更に力をつけるための素晴らしい機会を頂いてきました。

この度、女子部の実行部門には頼もしい三人の先輩副部長が揃いました。

かつて、詩吟といえば男子のものでしたが、近年では女子の進出が目覚ましく、合吟コンクールではいつも上位を占めております。私達千代田の女子部も負けずに一層の高みを目指して頑張りたいと思います。そのためにも全員で力を合わせ種々の方策を講じながら、微力を尽くしていきたいと考えております

平成三十一年度 吟剣詩舞道連盟コンクール 今年も入賞者多数

平成最後の吟詠コンクール区予選は二月九日(土)の港区に八〇名、三月二十一日(木・祭)の品川区に三九名、計一一九名が出場。入賞者も

六〇名とこれまでの最大数でした。上位入賞者の四八名が令和最初の五月の東京都大会に出場します。

◎港区

一般一部	二位	大森 尚美(桜ヶ丘)
一般二部	優勝	片山 寿風(東陽町)
	三位	能島 伸夫(新 陵)
	四位	脇阪 緑泉(東陽町)
	五位	伊藤 彰一(東陽町)
	七位	座間 文子(丸の内)
	八位	田村 瑠風(東陽町)
	九位	石母田喜泉(丸の内)
	十一位	近藤 美山(丸の内)
	十二位	小浦場伯泉(ハザマ)
	十七位	辻 敏子(調 布)
	二十位	上村 香山(丸の内)
	二十二位	吉原 雅己(東陽町)
一般三部	二位	宮野 幸山(東陽町)
	三位	西川 清悟(新 陵)
	四位	下條 信泉(丸の内)
	六位	中内 博風(草 加)
	七位	浪久 雅泉(神楽坂)
	八位	宮永 明山(ハザマ)
	九位	竹森 伊泉(新 陵)
	十一位	小梶 清泉(新 陵)
	十二位	小山 洋山(丸の内)
	十三位	浪久 大泉(神楽坂)
	十四位	前田 春泉(丸の内)
	十五位	櫻田 謙山(清 水)
	十六位	萩原 晴風(ハザマ)

◎品川区

一般一部	二位	石井 浩泉(新 宿)
	三位	青山 昇平(新宿二)
	四位	大和田久美子(新宿二)
一般二部	六位	中野 陽風(新 宿)
	十一位	櫻井慎一郎(神 田)
一般三部	五位	森山 仙山(清 流)
	六位	宮川 丞風(神 田)
	七位	池田 龍康(神 田)
	十五位	粕川 紘風(神 田)
	十六位	坂下 光山(新宿二)
	十八位	岡部 禎風(新宿二)
	二十一位	小林 公風(志 茂)
	二十五位	乙訓 稜泉(新宿四)
	二十六位	荒井千恵子(新宿二)
	二十八位	林 實泉(新宿三)
優秀賞		宇田川静山(新宿三)
同		平井 武泉(神 田)
同		山崎 楊風(神 田)
同		小柴 藤風(新 宿)
		井田 舜山(生 田)
		藤本 紘(東陽町)
		湯浅 和泉(中 野)
		中島 義山(丸の内)
		和田 之泉(新 陵)
		努力賞 鶴飼 輝山(東陽町)
		石井 哲彦(生 田)
		小蔦 正山(中 野)
		金井 俊泉(中 野)
		滋野 彦泉(みなと)

同 塚田 正泉（新宿三）
同 櫻河 義弘（新宿）
五月開催の東京都大会で次の方が健吟、入賞されました。（五月十日現在）

一般三部 五位 宮野 幸山

東日本大会へ出場されます。

努力賞 池田 龍康、西川 清悟

中内 博風

一般二部 努力賞 片山 寿風

初めてのコンクール

丸の内支部 座間 文子

この度、港区の吟詠コンクールに初めて参加し、思いがけなく入賞の榮に浴することが出来ました。当日は朝から冷たい雨の降る真冬並みの冷え込んだ日でしたが、幸いにも降雪の予報が外れ、電車も遅れることなく無事会場に到着しました。いよいよコンクールが始まり、ドキドキしながら舞台の袖で出番を待っていると、進行係の方が舞台での所作、更には吟じ出しの第一声は思いっきり大きくはつきりと吟ずるのが肝要である等色々教えてくださいました。そのお蔭もあってか何とか無事吟じ終えることが出来ました。

最後になりましたが今回こうして入賞出来ましたのも、偏に常日頃から教場長始め、先生方、諸先輩の優しくも厳しいご指導があったからこそと感謝の気持ちで一杯です。これに慢心すること無く一層の向上を目指して詩吟を学んでいく所存です。今後ともご指導を賜ります様よろしく

お願い申し上げます。

驚きと感謝

丸の内支部 前田 春泉

この度、初めて港区吟詠コンクールに挑戦し、入賞させて頂きました。「まさか！」と自分が一番驚いておりますが、周りの方々も本当に驚きだったことと思います。

岩崎先生を始め多くの先生方や教場長の懇切丁寧な指導と、教場の皆様の叱咤激励のお陰と、心より感謝申し上げます。

帰宅後、賞状を眺めて思いました。「社会人になって五〇年間、賞状を頂くことはなかったけれど、吟のお蔭で七〇歳を過ぎて『初めて』の経験が出来たんだ。これからの人生もまだ面白いことがありそうだ！」と。

宗家の「さて今からと七十二」のおことばを噛み締めました。本当に有難うございました。

港区吟詠コンクールの感想

東陽町支部 吉原 雅己

まさか、詩吟教室に通い始めて十か月でコンクールに出場するとは夢にも思わなかったものの、教場の雰囲気呑まれながら訳も分からず勢いで参加することになりました。

当初は「健康になり、大きな声で吟ずればストレス解消になる」を合言葉に詩吟を楽しむ予定でしたので、自分としては少し違和感があったもの

の、まあ、遊び・趣味の世界なので楽しもうかと思いつながらの初挑戦でした。

当日は雪が降り欠席する参加者もあり、一般二部は二二名の出場となり、既にこの時点で全員入賞が決まっている中でコンクールでした。そもそも入賞以前に初挑戦というプレッシャーの中で、無難に吟じることがを心掛けて臨み、少し待たされながらの挑戦でした。緊張感の中でスタートし、元気に勢いよく大きな声で吟じたと思つたものの、やはり、今から考えると何から何まで一杯いっぱいであり、初挑戦は苦い結果であった。都大会ではしっかりと練習してバージョンアップして臨みたいと思っている。

港区コンクールに入賞して

みなとみらい 滋野 彦泉

入賞を頂き、お世話になった方々に厚くお礼申し上げます。新陵教場に七〇歳で入会し、現在五年目では「みなとみらい教場」で勉強いたしております。

入会して鈴木会長のコンダクター教室に入れて頂き、月三回ご教授賜り、楽しく正確に吟じることが出来、厚く感謝いたしております。

コンクールの反省と自戒です。

一、暗譜のつもりが譜を読んでしまい、自信のなさでした。またCD伴奏に慣れることが必要です。
二、譜を全部読んでしまい、詩情、感情の表現を忘却してしまいました。

三、マイクの前に立てば存在感のある態度、目線

が説得力を持ちます。

以上自分なりに次への課題として取り組んでまいりたいと思います。

吟の教室へ入れて頂き、腹から声を出し、吟譜を覚え、脳の活性化を促し、少しでも長く健康で生きられることを願っております。又、この入賞を期にさらに努力し、教室の皆様と共に楽しく、吟詠出来ることを進めていきたいと願っております。

港区コンクールに初入賞して

東陽町支部 藤本 紘

入会して満三年、昨年は誤読で失格していますので今年には素読を心掛けて臨みました。

詩吟は吟ずることの面白さと共に、作者の境涯や時代背景を知ることにより、一層理解が深まり興味も湧いてきます。詩吟は生活のリズムになり、また教場の仲間との交遊から新しい視野も開けて来ました。

最近友人の医者から聞いた話ですが、老齢期の健康寿命は、交遊の多さ或いは参加しているコミュニティの数と質に大きく影響を受けるそうです。周りの友人にも詩吟の楽しさと効用を説いて当会への参加者を増やしたいと考えております。

コンクールに初入賞して

新宿第二 荒井 千恵子

千代田岳精会に入会して三年が過ぎて僅かで

はありますが、やっと吟の何かを感じる様になり日々学んでまいりました。

そんな矢先にコンクールに出場して夢中で吟じました。そして思いがけず「入賞」という発表を受け夢か現かと思いました。

最初で最後だと言いついて聞かせてみたものの感動しました。ご指導して頂いた先生方に心より感謝いたします。時間が過ぎるに従い、来年も頑張ってみようと思いが湧いてくるのが不思議です。今後の私の課題としては先生方の教えを受け止め、アイウエオの口を大きく開き、声は腹式呼吸を使って出して、心を込めて吟じたく思います。

楽しい教室で心ゆく迄大きな声を出して、これ程の醍醐味はあるでしょうか。自然の中に生き全ての物に耳を傾けて、これからも暖かさや人情を感じ取れる人生を歩んで行こうと思います。岳精流あればこそその人生観です。

自作自詠（俳句）研修について

リーダー 橋本 千舟



「趣旨」

千代田岳精会の活動の一環として、平成二十二年四月発足。原則として、毎月第二火曜日午後二時から定例会を開催。素材、視点、表現を三本柱とし、徹底観察による句作り、そして自作を吟じ、吟力の向上を計る。

「内容」

一、自作（素題一句、雑詠一句）二句と、自選（新聞の俳壇より、但し選者作を除く）一句、計三句の投句。

二、自作二句の解説と吟

三、名句鑑賞（鑑賞力の涵養）

四、吟行句会（春、秋）の実施による即吟力の涵養。吟行地は深大寺、新宿御苑、六義園、神宮外苑、自然教育園等である。

五、句誌「湧水」の発行（年一回）。掲載句は、前年度の一月から十二月発表句のうちから、八句（原則として）。本年度で十号となる。

「俳句」湧水十号より（千舟選）

（記）

首すくめ床屋帰りの冬帽子	しょう
少年のまま逝きし子や蝉時雨	てるお
桑の実を幾つ食ったと子の自慢	つねこ
白日傘歩調あはせて母娘かな	龍駿
卒業子見守り隊に花渡す	まき
焼芋のしこみ屋台の赤ちようちん	宗萌
椅子並べ老ひの会話や文化の日	凌司
春待つや老ひの二文字脇へ遣り	陵人
阿波おどり踊り続けて八十路かな	じゅんじ
吾が血筋播磨に残る初節句	玄猷
新緑やゆれるピアスの風の唄	壽
柿落ちて夢を破るやトタン屋根	おさむ
出刃一閃鱈は刻を樂しまず	道人
独り居の庭に一輪寒椿	鳥城
庭の木に朝日の映えて春近し	泰俊
いなづまの縦光りして日照雨止む	千舟

脳血栓を助かって

丸の内支部 本田 親山

去年の夏の昼、私は俗に言う脳血栓を発症した。丁度、静岡に住む娘が電話を掛けてきた時だが、娘には、私の応答がまるで吃って喋っているようで分からなかったという。娘は咄嗟に異常を感じ電話を切って、東京の二人の兄に電話を入れたが、二人とも仕事で不在。「至急、父の所に行くよう」と緊急メールを送った。午後二時、次男が気付き私の家へ車を飛ばした。

言語障害が始まったばかりで、手も痺れている。似た話を聞いて知っていた次男は「これは脳血栓かも？」と判断。東京では救急車がフル活動で、時間がかかると聞いていたので、咄嗟に自分の車で総合病院に連れて行こうと判断。十五分で病院へ到着。救急措置をお願いしたところ丁度、脳神経外科医も在院中で滑り込みセーフ。すぐ診察のうえ抗血小板注射をして血栓防止を図り、発症から四時間以内で無事安静、点滴となった。二日で投薬へ切り替わり、入院八日で退院許可となった。担当医からは、自宅では漬物など塩分を採り過ぎないように、また炭水化物を減らし糖尿病に気をつけ、大豆製品や小魚蛋白質と野菜を主として摂ることを指示された。運動も歩くことを心がけよと言われ、ゆるゆる暮らしている。思ったことは、子供達に少し病気の知識があったことが有難かった。

「血栓症は、四時間以内の手当てが勝負だ」
肝に銘じておきましょう。

中国江南の旅へ、吟友と

神楽坂教場長 勝村 忠風

吟友四人で、六日間の満足感溢れる旅を楽しんだ。十数年前に訪れた中国は目覚ましい経済発展を遂げ進歩の様に眼を見張り、深い感動が気持ちを奮い立たせた。とにかく道路や計画的に押し進められた街並みや住宅地域の全てが広く大きい。縦横無尽に張り巡らされた高速道路がどこまでも伸び運河も広い。自転車の姿は少なく中国製の高級車やベンツ・BMWの外車が圧倒的で、右車線に慣れない目には「危ない」と声が出る。前回とは異なり全てスマホ決済の人々の姿は堂々として自信に溢れて見えた。一人子政策を続けた影響かマンションが高価すぎる。マンションが無ければ結婚は無理という話もあり先行きの不安も垣間見た。

初日は上海を見学して蘇州へ、寒山寺や大胡石と水の庭園「拙政園」や世界遺産を数か所周り、兩岸が見えない程広い長江を実感しながら渡り、揚州へと旅は続いた。今回の旅で印象深い水郷古镇、同里遊覧は心に刻み、忘れぬほどの深い感銘を受けた。遅く到着した宴会場では大拍手の歓迎に迎えられる最後に、詩吟をお願いしましたが、張継の「楓橋夜泊」をすらすらと書いたメモ書を渡され披露した。

鑑真和上ゆかりの大明寺や小さな商店街が並び東関街歴史地区などツアーでは見学できない数々の遺産見学を二人のガイド付きで見物することが出来た。夜は地元の財閥に連れられた鍋料理やカエル料理、毎回食べる料理で何時お腹を壊すか心配しながら通訳を交え懇談を楽しんだ。

最後の夜は市長も交え、用意したコンダクターを弾きつつ、三曲の李白、杜甫や日本の短歌を気持ちよく吟じ大喝采と感動の握手に送られ会場を去る。高級食材が多く使われていたが、正直食べ物の味は中国人好みで、最後の海辺の昼食上海蟹料理が美味しくて同行の人たちも喜び沸き立っていた。

日中国交正常化四十五周年を迎えた今年、少しでもこうした交流を通じて草の根友好を図る動機付けが出来たのかと思えて、これも詩吟のお陰と感謝したい。



白球を追いかけて

—センバツ大会観戦記—

新宿第三 湯田 直泉

大正、昭和、平成と三つの元号と共に歴史を重ねてきたセンバツ高校野球大会は、平成最初の王者東邦（愛知）が平成最後の優勝を果たした。

決勝は、私立の古豪東邦と夏二度全国優勝で公立の習志野（千葉）が対戦。6―0で東邦が三〇年振り五度目の優勝となった。

有望選手が集まり、恵まれた環境で野球に打ち込める私立校に比べれば制約が多い公立校。野球王国・千葉の言葉も風化されつつある。習志野と銚子商が牽引してきたのも今は昔、最近千葉も私学優勢でセンバツ出場の公立校は〇九年の習志野以来で、夏の大会も十一年の同校が最後だ。

こうした私立との差がある中、公立として派手さは無いが機動力と継投で三試合連続逆転勝と、粘り強く勝ち抜いてきた習志野にスポットを当ててみた。

〈沿革〉

昭和三十年四月一日、習志野市立習志野高等学校として開校、野球部は開校と同時に創部。甲子園へは春四回、夏八回出場、六七年夏に千葉県勢初の全国優勝。七五年夏に二度目の全国制覇。野球部の主な卒業生は、谷沢健一（元中日）掛布雅之（阪神コーチ）小川淳司（ヤクルト監督）福浦和也（ロッテ内野手）。

〈勝利の軌跡〉

昨秋の公式戦は地区予選から苦戦の連続で「二

回、死んだ」と修羅場を味わった。関東大会でも、延長十四回のタイブレークを制し、甲子園へ出場。

この習志野を二〇〇八年から率いるのがOBの小林監督。市立船橋高の監督として五度の甲子園出場を誇る。習志野でも春夏二度チームを甲子園に導いた。

小林監督の野球は、セオリーではなかなか考えられないような作戦が特長。そのベースとなつていくのが選手の「感性」を大事にした指導方法だ。二〇一一年夏、対静岡高戦で満塁からトリプルスチールを決めた。まさに劇的なプレーだった。

今大会でも、初戦の日章学園戦では初回、相手のミスを突いて一挙七点を先取。また、準決勝、明豊高戦では重盗を成功、更に失敗するもホームスチールも試みた。まさに、小林野球を垣間見ることが出来た。

ここで、今大会の大騒動「サイン盗み」について記したい。優勝候補の星稜高戦、今年の高校野球界投手四天王の一人でプロ野球ドラフト候補にも挙がっている奥川投手を攻略し、3―1で下馬評を覆した。古豪はまさに今大会の台風の目であった。だが、この試合には別の波紋があった。問題の場面は、四回表に習志野の二塁走者にサインの伝達行為（サイン盗み）があったと星稜林監督が抗議。また、星稜側が再び不満を示したため四人の審判が協議したものの、結局は二塁走者に対し「紛らわしい仕草をしないよう」と注意するに留まった。それでも林監督の怒りは収まらず、試合終了後、習志野の控室に二度乗り込み小林監督に抗議。高校野球の監督が相手方に直接抗議す

ること自体前代未聞である。試合が終わればノースサイド、お互いの健闘を称え合うのがスポーツマンシップではないか。

高野連もこの騒動は円満に収めたい感じた。この騒動を乗り越え、習志野は決勝戦へ進出したが千葉県勢の初優勝はならなかった。

〈美爆音の吹奏楽部〉

習志野高と言えば大変有名な吹奏楽部。部員数は二〇〇人超を誇り、全日本吹奏楽コンクールで二十三回の金賞など「東の横綱」と呼ばれる名門。星稜との二回戦では、あまりの美爆音により甲子園の近隣住民から大会本部に苦情が入り、試合中に三つの太鼓の数を一つに減らした。準々決勝では大会本部から通常通りやっていい、との通達があったが周辺に配慮し、部員を五〇名減、太鼓一つに自粛した。この吹奏楽部が率いる大応援団のスタンドとベンチが一体となった戦いがチーム躍進に大きく影響したのは言うまでもない。

さて、平成から令和へ時代が移り、高校野球界には多くの積み残した課題もある。指導者による「体罰やパワハラ」、今回の「サイン盗み」騒動、更には「多校・連校」など、高野連としても検討しなければならない問題だ。高校野球だけが旧態依然では時代に取り残される。チコちゃんに叱られないよう、新しい体制で球界が更なる発展を遂げるようファンの一人として祈るものである。

〈甲子園での交流〉

甲子園では野球観戦の他、仲間達との交流も楽しみだ。住んでいる所や仕事はバラバラだが、甲子園の季節になると集まる。期間限定のファミリ

一みたいな関係だ。

センバツ大会は全席自由席なので座席は早い者勝ちだ。大会期間中、誰よりも早く「8号門」入口に陣取り、徹夜で開門を待ち、開門と同時に小走りで自分の席や仲間の席を確保する。席取りの互助会みたいだ。また、夜の甲子園場外大会は、コップ片手に大いに盛り上がるが、八時前にはゲームセット。何故ならば翌朝が三時起床などのもいるから。このような甲子園の魅力にはまり、十余年。昨年夏の一〇〇回記念大会で甲子園での観戦は一、〇〇〇試合を超えた。傘寿となった今、あと何年続くだろう。

【新会員紹介】

◇桜ヶ丘教場

岸本 良江さん（一月入会）

本日、初めての審査会に参加させて頂きました。会員の方々の庭園での直前練習風景、また審査の先生の指導の見事にびっくりし、尚詩吟に引き付けられました。教室の暖かい雰囲気、に元気をもらっています。女子研修会楽しみにしています。

◇用賀教場

丹羽 守裕氏（三十年十二月入会）

松本教場長のもと、月二回詩吟の勉強をさせて頂いておられます丹羽と申します。基本的なことから教えて頂き、毎回新たに気づかされることも多く、発声、合吟と二時間が大変短く感じ、また健康的な時間を過ごさせて頂いていると感謝しており、引き続きご指導をお

願います。

◇新陵教場

吉田 勇夫氏（三十年十二月入会）

鈴木会長からの勧めで約三年前に見学したのですがその時は教室の日程が調整出来ず、十二月に正式入会しました。教場に来て会員の皆様が真摯に取組まれている姿をみて私に出来るか心配でしたが皆様のご協力により何とか五月が過ぎ昇任審査に出席させて頂き感謝しています。これからも素読を充分にし、詩の意味を体得し練習に励みたいと思っています。

◇みなとみらい教場

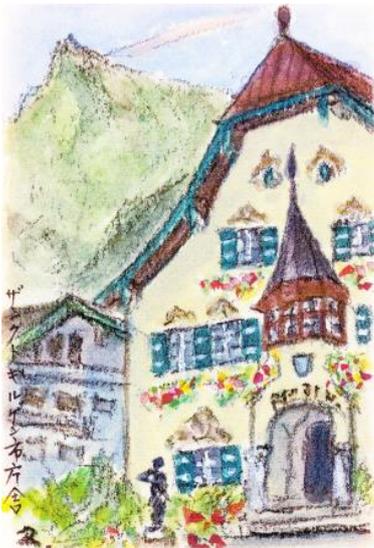
長野 正樹氏（三十年十一月入会）

土曜日の午後、みなとみらい教場にて充実した時間を過ごして、気分爽快であり、熱心なご指導に感謝です。今後も宜しくお願い致します。

計報

◆山本 薫風氏（ハザマ支部）

平成三十一年二月四日逝去されました。享年八十三歳、謹んでご冥福をお祈りいたします。



編集後記

三十年余続いた平成が天皇の退位により、皇太子殿下が第百二十六代天皇として即位し元号が『令和』と改元された。出典は初めて日本最古の歌集「万葉集」からということ国民の中に肯定的な意見が多く聞かれる。

万葉集は大伴家持の編纂と言われ、天皇から乞食まで四、五一六首の詩が集められている。高校時代、国語の教師から特に万葉集のなかで小生の郷里を舞台とした筑紫歌壇として、大友旅人大宰率を中心とした文化人の詩を熱く説かれたことを思い出した。大陸文化の流入口として文字、文化、技術、宗教が滔々と流れ入る古代のエネルギ―を感じさせる。

明治維新以来、歴代大きな戦争を体験し、多くの国民の血をもって国力を発展させたが、無謀な第二次世界大戦の敗戦で学習院初等科時代に文字通り「国破れる」体験された平成天皇が、退位にあたって振り返られた平和への思いが込められた言葉は我々の世代には共感で心が満たされる思いだ。

今年、二つ目の教場が開設された。また、鹿児島支部の指導担当の田尻映風さん（丸の内支部）がご主人の出身地 いちき串木野市で新しく教場を開設の運びとなった。教場が新しい時代へ大きく羽ばたくことを祈ります。（八田 龍仁）